

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 14 日現在

機関番号：13301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25885039

研究課題名(和文)スウェーデンの義務教育における美術教育

研究課題名(英文)Art Education in Swedish Compulsory School

研究代表者

池上 貴之(Ikegami, Takayuki)

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：70707968

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：新たなデザイン教育の可能性を探るという視点から、世界的に評価されるデザインを生み出し続けるスウェーデンの義務教育課程の美術科「アート」におけるデザイン教育を研究した。スウェーデンの基礎学校の学習指導要領の分析や現地での授業観察、教師からの聞き取り調査、日本の学習指導要領との比較を行った。これらの調査・分析を通して、日本の美術科とスウェーデンの基礎学校「アート」における「デザイン」に対する認識の隔たり、基礎学校の美術科「アート」において「デザイン思考を用いたビジュアルコミュニケーション能力の育成」、「映像メディア表現能力の育成」といったデザイン教育的要素が重視されていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The study focused on design education in the art course of Swedish compulsory school, to explore the possibility of new design education that leads to develop the human resources for the design industry in Japan. The reason the study has focused on Sweden is because they are famous for its good design, and representative country of the Scandinavian design. The research is based on the analysis of the course of study and field survey in Swedish compulsory school "Grundskola", and comparison with the course of study in Japanese compulsory school. As a result of study gotten the following knowledge. 1) A gap of recognition of art class in Japanese compulsory school and Swedish compulsory school for the meaning of "design". 2) Art class in Swedish compulsory school is focusing on the design education elements such as a development of visual communication skills using the design thinking, and the image media (using computer) representation capability.

研究分野：教育学

キーワード：教科教育 デザイン教育

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、これまでスウェーデンの義務教育課程における美術教育について十分に研究が行われていなかったことがきっかけにある。

北欧デザインは、手作りの製品から工業製品にいたるまで、簡素な美しさと機能性を備え、1950年代から60年代ごろ隆盛、世界的な評価を得た。しかし、その優れた北欧デザインを支えるために、どのような美的・デザイン的な教育活動が国民に対して、義務教育課程で行われているのか十分に研究されていない。日本の美術教育の質を向上させるためにも研究を進めることが重要であると考えた。

加えて、文部科学省告示の最新の中学校学習指導要領美術編（平成20年）において、デザイン教育における映像メディア表現の積極的な活用がうながされているが、平成14年の中学校学習指導要領美術編に「映像メディア」の記述が登場以来、日本では具体的な教材の開発が遅れている。

また、現在日本では、経済産業省が平成24年1月にクール・ジャパン戦略を打ち出し、若手クリエイターや企業の海外進出促進など、国際社会におけるデザイン戦略への対応を進めており、美術やデザインの分野で商業的な成功を勝ち得ることが日本の緊要の課題の一つとなっている。（URL [http://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/mono/creative/](http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/)）

申請者はこれまで美術教育におけるデザイン教育の開発及び研究を行ってきた。加えて、スウェーデンの大学院へ留学した際、スウェーデンでは高等教育機関に対して国が特別な奨学金や賞を設け、様々な取り組みで優れたデザイナーを排出し続けていることを知った。そのため、スウェーデンの義務教育課程の美術教育においても特別な取り組みが行われていると仮定すると、ス

ウェーデンの美術教育を調査することは、次世代の日本のデザイン産業を担う人材育成につながる新たな美術教育の可能性を探る手がかりが得られると推測された。

## 2. 研究の目的

本研究は、スウェーデンの義務教育における美術科教育のカリキュラム構成・指導内容、加えて文部科学省告示の学習指導要領にその積極的な活用が促されている映像メディア表現についてスウェーデンでの取り組みを現地で視察・インタビュー調査し、日本の美術教育との比較研究を行うことで、次世代の日本のデザイン産業を担う人材育成につながる新たな美術教育の可能性を探る。

（1）義務教育における美術教育の文献調査・実地調査を通して、日本の小・中学校における美術教育のカリキュラム構成・指導内容・課外活動・映像メディア表現への取り組みを明らかにする。

（2）金沢大学附属小・中学校を訪問し、授業研究や教員へのインタビューを行い、現状の美術教育のカリキュラム構成の問題や課題を明らかにする。

（3）資料研究や現地の小中一貫校の視察を通して、スウェーデンの義務教育における美術教育のカリキュラム構成・指導内容・課外活動・映像メディア表現への取り組みを明らかにする。

（4）スウェーデンの小中一貫校にて視察や教員へのインタビューを行い、スウェーデンの美術教育の問題や課題を明らかにする。

以上のように、日本の小・中学校とスウェーデン小中一貫校における美術教育の取り組みを明らかにすることで、日本とスウェーデンの比較研究を行い、研究結果に基づく新たな美術教育の可能性を明らかにする。

### 3. 研究の方法

日本の小・中学校の美術教育のカリキュラム構成・指導内容・課外活動・映像メディア表現への取り組み・美術教育の抱える問題や課題を明らかにするために、資料研究・現地視察・教員へのインタビューを行った。

スウェーデンの小中一貫校における美術教育のカリキュラム構成・指導内容・課外活動・映像メディア表現への取り組み・スウェーデンの美術教育の抱える課題を明らかにするため、資料研究・現地視察・教員へのインタビューを行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究成果

スウェーデンの義務教育課程の学習指導要領の調査研究、2014年2月に行ったスウェーデンの基礎学校での授業観察や教師からの聞き取りなどによって得られた知見をもとに、日本の義務教育課程の学習指導要領の内容と比較しながらスウェーデンの美術科におけるデザイン教育の特徴を考察した。その結果、スウェーデンの基礎学校「アート」において、表現に加え思考力そのものに視点をあてた「デザイン思考を用いたビジュアルコミュニケーション能力」が、極めて重視されていることが明らかになった。日本の教育現場では、思考とデザインを関連させることによる題材化の難しさや指導方法といった指導者側の問題など懸念されるが、スウェーデンの基礎学校では学習指導要領に具体的な指導内容が明記されており、専門性を持った教師が教育活動を展開していることが明らかになった。

また、日本では具体的な教材開発が遅れている映像メディア表現についても、基礎学校では学習指導要領に具体的な指導内容が明記されていること、子ども一人に対して一台のノートパソコンやタブレットを用意する

ことで映像メディア表現の環境整備を進めていることが明らかになった。加えて、コンピュータを使用することで避けて通れない情報ネットワークの利用について、学校と家庭が連携して教育活動に活用する先進的な取り組みが明らかになった。

#### (2) 今後の展望

研究成果をまとめた論文執筆作業中である。研究期間は終了したが、今後さらに研究内容を精査し、国内外の学会誌での論文掲載を通して広く研究成果を発表していきたい。

スウェーデンの基礎学校「アート」について研究を行う中で、同学校の「クラフト」におけるデザイン教育についても「アート」同様に分析を進める必要が高まった。また、スウェーデン国民のデザインに対する意識の高さを支える要素として、スウェーデンにおける生活とデザインの関係性に着目し、義務教育課程以外の視点を含めて多角的に解明していきたいと考えている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)  
執筆中

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://ikegami.w3.kanazawa-u.ac.jp/1309/index.html>

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

池上 貴之（IKEGAMI TAKAYUKI）

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：70707968

### (2)研究分担者

（ ）

研究者番号：

### (3)連携研究者

（ ）

研究者番号：